

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第44回 全国中学校バスケットボール大会	期間 2014年8月22日(金)～8月25日(月)
開催地 香川県	会場 高松市総合体育館など
参加者 田中 充	所属地区名 名寄地区
講師 ◇前日A級研修会・審判レクチャー講師 …玉木 彰治 氏(本部・富山AA)、田邊 真由美 氏(本部・兵庫AA)	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など ◇審判レクチャー …テーマ「審判の目線から見たコーチ論」～すべての人々のために コート上でどうあるべきか～	
実技研修、座学研修等の記録 ◇A級研修会 ここ数年3パーソン研修を行っていたが、改めて「判定力を高める」というテーマで2パーソンでの研修を行った。 同世代で色々ディスカッションを促すために、年齢の近いペアとなった。相手は長崎の森田氏、主審は田中で高校生のハーフゲームを1本担当。講師の玉木氏からは「ゲームコントロールのために」という内容でアドバイスをいただいた。 ◇審判レクチャー 本部・玉木氏より上記内容についてレクチャーがあった。判定について「影響の具体的な例」が話されたことと、「審判をしてコーチングに活かしたこと」の内容は、現在道ジュニア連盟でも推し進めているテーマと合致するものがあり、非常にためになるものであった。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年8月23日 (土)	対戦カード 男子予選リーグE 布水(石川)66 - 56梅丘(東京)
主審 田中 充	相手審判 山西 秀治 氏(香川 公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。 梅丘が超大型チームなのでオフボールからプレイを確認できるように2人で協力することと、布水のドライブからの合わせに対する受けをしっかりすること。また、ベンチのコーチの振る舞いに対する対応についても確認した。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:玉木 彰治 氏(本部・富山 AA) ハードゲームであったが、いつも通り落ち着いた姿勢で自分の判定を出そうとしていたところが良かった。後半の展開で片方のチームに連続してファールをコールする場面があったが、ゲームコントロールの観点からいうと少し気をつけた方が良かった。 自分の目の前で相手審判が鳴らしてしまった時は、自分の判定とは違っても合わせることで相手を救うことにつながる時もある。	
ゲーム感想 ゲームとしては、200cmと190cmのインサイドを要する梅丘と、後に今大会優勝する布水の一戦で、ゲームレベルも高く好ゲームの割り当てをいただいたことでコート上の姿勢で気持ちを表現しようとコートに入った。案の定、梅丘のインサイドに対するオフボール・オンボールでの布水の守り方がポイントとなる。ここに対して両チームとも色々対応を変えてくるので、相手審判と機会があるたびに話しながらアジャストしていくことを心がけた。ゲーム的には大きな問題なく終わらせることができたが、主任の玉木氏よりかなりレベルの高いアドバイスをいただいたことで今後の成長の材料を再確認できたゲームであった。	

実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2014年8月24日 (日)

対戦カード 男子決勝トーナメント準々決勝 枚方第四(大阪)48 - 63実践学園(東京)

主審 田中 充

相手審判 安藤 剛 氏(大分 A)

ゲーム前のカンファレンス内容

2人の視野の分担、3・4番エリアやリードが右に行った場面、オールコートデフェンスへの対応をそれぞれ確認した。

2人でボクシングインを意識し、触れ合いを2人とも確認できないということが無いように確認。

また、実践学園の大型プレイヤーに対する守り方、特に手の使い方については早い段階で基準を示すように心がけることとした。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:佐藤 良明 氏(秋田 A)

とてもスムーズに進められていて良かった。リードでの受けに対してもしっかり位置取りができていたと思う。ショットに対する手の使い方に対するファールの取り上げも、表現的にはまわりに伝わったと感じる。

ゲーム感想

負けたら終わりの決勝トーナメントなので、お互いに疲れがある中でも必死に頑張るチームであった。そんな中でリバウンドの攻防と、ショットに対する手の使い方がポイントとなったが、相手審判と常に位置取りやプレイの変化などを確認しあいながら進めることができた。ゲームが終わった時に負けたチームからも良い言葉をかけていただき、ゲームの進め方としてはまずまずだったと感じる。

ただ、相手審判を最後まで引っ張るという観点では課題が残った。

実践実技3

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2014年8月25日 (月)

対戦カード 女子決勝 藤浪(愛知)57 - 71折尾(福岡)

第2副審 田中 充

相手審判

主審 高橋 尚裕 氏(本部・高知 AA)

第1副審 小島 慶子 氏(本部・香川 AA)

ゲーム前のカンファレンス内容

メカニックでは3番4番エリアからのストロングサイドのドライブに対する受け方を確認、後はみんなでカバーしあいながらゲームを楽しもうと確認。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 主任:御手洗 亮 氏(本部・大分 AA)

WJBLを担当されている2人と吹く中で、自分の目指すべきものにチャレンジしている姿がよくわかったゲームであった。これからもこのことを大切に自分の実力を上げていって欲しい。

ゲーム感想

ついに全中でもメインコートの割り当てをいただいたことにとっても感謝している。最終日の3パーソンの経験もいくつかしてきたこともあり、過去にないくらい落ち着いてゲームに入ることができた。AAのお二人とクルーを組んで実際にコート上で感じる落ち着きやゲーム運営などもとても参考になった。

ゲームの最初は判定を合わせることに気が行ってしまうところもあったが、1Pの終わりあたりからは終始落ち着いてゲームを担当できた感じている。

まとめ

気がつけば全中の参加も2巡目に入っていました。全国に出るようになって上級へレベルアップし、道内でも主要ゲームを任されることになったりと、自分自身の経験上とても意義のある大会だと感じています。今年も、これまでの経験を大切にしつつ普段道内で学んだ事をオンザコートで表現し、ゲームを任せていただけるレフリーとして2日目、そして最終日の割り当てを勝ち取ることを目標としました。

結果として大会2日目には男子準々決勝の主審の割り当てをいただきました。A級でここに入ったのは私を含め3~4名なので、それなりに評価していただいていると感じました。そして最終日には女子決勝の割り当てをいただいたことは、自分にとってさらに大きな自信となるとともに、これまで道内や地元地区でご指導いただいた方々のおかげと感謝する次第です。

決勝のコート上で他のクルーから学ぶことも非常に大きかったです。やはり見て学ぶことも大切ですが、オンザコートで感じる事がより自分の経験値としては重要になってくると思います。そのためには、やはり北海道での取り組みが大切です。自分だけではなく北海道の仲間のためにもここで学んだことを還元し、この北海道で研鑽を積むことを大切にしていこうと再確認したところです。

最後になりましたが、今回もこのような機会を与えてくださった道協会並びに地区協会の皆様に感謝しつつ、この場を借りてお礼申し上げます。